



南三陸町立歌津中学校

歌津中学校だより

たつがね

教育目標 志をもち、たくましく未来を拓く生徒の育成

令和4年9月5日

第13号

文責：伊藤 浩志

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果と考察及び対策について

令和4年度の「全国学力・学習状況調査」の結果を受けた考察及び対策について保護者の皆様にもお知らせいたします。全体的に全国平均を上回る良好な結果でした。しかし、さらに上を目指し、今後の学習指導等に邁進してまいります。今後もと、ご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

1 国語科

(1) 結果の概要と考察

- ①どの領域においても、県平均、全国平均を上回る結果となった。しかし、話すことの領域における「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」での正答率が、全国平均、県平均どちらにおいても下回っている。この結果から、相手に伝わる表現方法について理解し、実際に活用することにおいて課題があることが分かる。
- ②「読むこと」での正答率が同様に県・全国に比べて下回っている。場面展開や登場人物の心情の変化の読み取りを文章中の言葉を根拠に読み取ることに課題があると分かる。

(2) 今後の改善策

- ①文章中の言葉を根拠とした言語活動を通して、適切に言葉を用いる機会を増やすだけでなく、相手に伝わる表現方法を吟味し、考えて活用する場面を設定する。
- ②場面展開や登場人物の心情の読み取る力を育むために、登場人物の行動・情景・心理の描写を文章中の言葉を根拠に考えさせる学習活動を行いたい。

2 数学科

(1) 結果の概要と考察

- ①県及び全国平均に比して、B「図形」領域を除けば、他の三領域及び合計において正答率が大幅に上回っている。また、令和3年度の県及び全国平均と比較しても、A～Dの全領域において正答率の向上が見られた。個々の問題に対する解答状況を見ると、「図形」領域をはじめとして、証明問題等、事柄の理由を説明すること、論理的に思考・判断することや、それらの思考過程を表現するなどといった応用的な問題において課題が見られた。
- ②学力（数学）と関連する学習状況のQ57～59の設問（それぞれ、「社会で役に立つ」「生活の中での活用」「諦めずに解く」）に対して、該当する傾向であると答えた生徒の割合が、県及び全国平均に対して、大きく上回っている。しかし、Q54の「数学が大切だと思うか」の設問では、否定的に下回っているかに見えるが、本校の生徒数が少ないこともあり、ほぼ同程度と見てよいと考える。

(2) 今後の改善策

- ①計算問題等の基礎的・基本的な知識・技能の活用問題に比べ、筋道を立てて説明を行うなど論理性が要求される証明問題等が課題であり、ICT教材等を活用するなどして、論理の展開を視覚的に理解させるなど、教材・教具をはじめとした授業改善に取り組んでいく。
- ②「大切か」と漠然とした抽象的な設問より、個別的、具体的な設問に対して該当する割合が高い傾向があると考えられる。授業等において、数学の具体的な活用例等に触れる際に、生活に役立つ大切なものであることをしっかりと指導していく。

3 理科

(1) 結果の概要と考察

①どの領域においても、県平均、全国平均を上回る結果となった。「エネルギー」を柱とする領域において、実験結果から得られた数値やグラフを基に、現象を解釈する項目に苦手意識が見られる。また、得られたデータから適切なグラフを作成し、その現象について説明することに課題が見られた。

②全体を通して、知識を活用して考察する問題に課題が見られる。

(2) 今後の改善策

①授業内で、実験結果をまとめ、適切にグラフにする力を身に付けさせる必要がある。また、作成したグラフや実験結果から何が分かるのか、根拠を基に考察する学習活動を確実に設定する。

②理科の見方・考え方を働かせる場面がどこにあるのかを単元計画の中で明確にし、授業実践を行いたい。また、個別最適な学びや協働的な学びを実現させる学習形態を実現させることが上記の課題を解決することにつながると考える。

③全領域において、知識を習得する場面、活用する場面、探究する場面を明確に分け、基本的な基本事項を活用しなければ解決しない学習活動を単元の中で一つは実施する。

4 生徒質問紙

(1) 結果の概要と考察

① どの項目も県、全国と比較して高い割合を示している。

「(7) 自分にはよいところがあるとおもいますか。」が少し低い点から自己肯定感が低いことがうかがえる。この結果と生徒の実態の比較から、自信をもって物事に挑戦することが苦手な生徒が見られる。

「(11) 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか。」では、県平均や全国平均に比べて将来の夢や目標を持つことが出来ていない生徒が多いことがうかがえる。「(7) 自分にはよいところがあるとおもいますか。」に関連して、夢や目標を持つことにそもそも自信が無いのか、自己肯定感がなく、自分自身の可能性を低くみることで、実現できないのではないかと考えていることも考えられる。

②「(11) 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか。」では、難しいことに対して失敗を恐れてしまい、挑戦出来ない傾向にあることがうかがえる。失敗経験を成功体験と捉えることが出来ない生徒が多い。また、自己肯定感の低さから挑戦することに二の足を踏んでいる実態もある。

(2) 今後の改善策

県平均や全国平均から比較すると低い数値を示す項目を上記では、あえて学校課題として取り上げている。現状では多くの質問項目において、県平均や全国平均を上回る高い数値を示している。また、学級集団全体の集団形成の状況を見ても、男女分け隔て無く様々な日常活動や行事に積極的に関わる様子も見られる。また、挑戦する姿勢も見られ、学級集団の凝集性も日に日に高まりが見られる。その上での改善策を以下に示す。

①自己肯定感が低いことは、日常での成功体験が少ないことが原因である。成功体験を積む場面のひとつとして授業があげられる。ほんの小さな事でも成功体験とする時間を授業の中でつくる努力を各教科担任が全力で進めたい。

②難しいことに対して失敗を恐れてしまう傾向がある面については、各授業者が生徒一人一人に対して挑戦する場面を授業の中で意図的に設定していきたい。また、学級担任が日常から一人一人が認められ、温かな雰囲気の中で学級経営を心掛けたい。